

SQiP2013委員会特別企画

# 投稿応援フォーラム：社外発表のススメ

企画の背景・過去の発表の傾向

SQiP2013委員会 委員  
河野哲也 / 脇谷直子

# SQiP2013について

## SQiP: Software Quality Profession

実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・普及を目的として、日本科学技術連盟の下に設置されたソフトウェア品質向上のための推進組織

1980年に活動開始、2007年よりSQiPに名称変更



活動の1つ

## ソフトウェア品質シンポジウム (SQiPシンポジウム)

ソフトウェア品質に関する日本最大級のシンポジウム

今年は2013年9月11日～13日に開催予定

経験論文および経験発表の2カテゴリで一般発表募集中！

(日科技連Webサイトより)

# 本フォーラムの企画趣旨

SQiPシンポジウムは

- ソフトウェア品質に関わる全ての方々が対象。
- 現場で役立つ実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果を発表し、意見交換を行う。
- ご発表いただくことで、議論や情報共有ができる。
- 皆様の取り組みの進化への布石となるはず。

SQiP2012の発表件数： 23件  
(うち経験論文9件、経験発表14件)

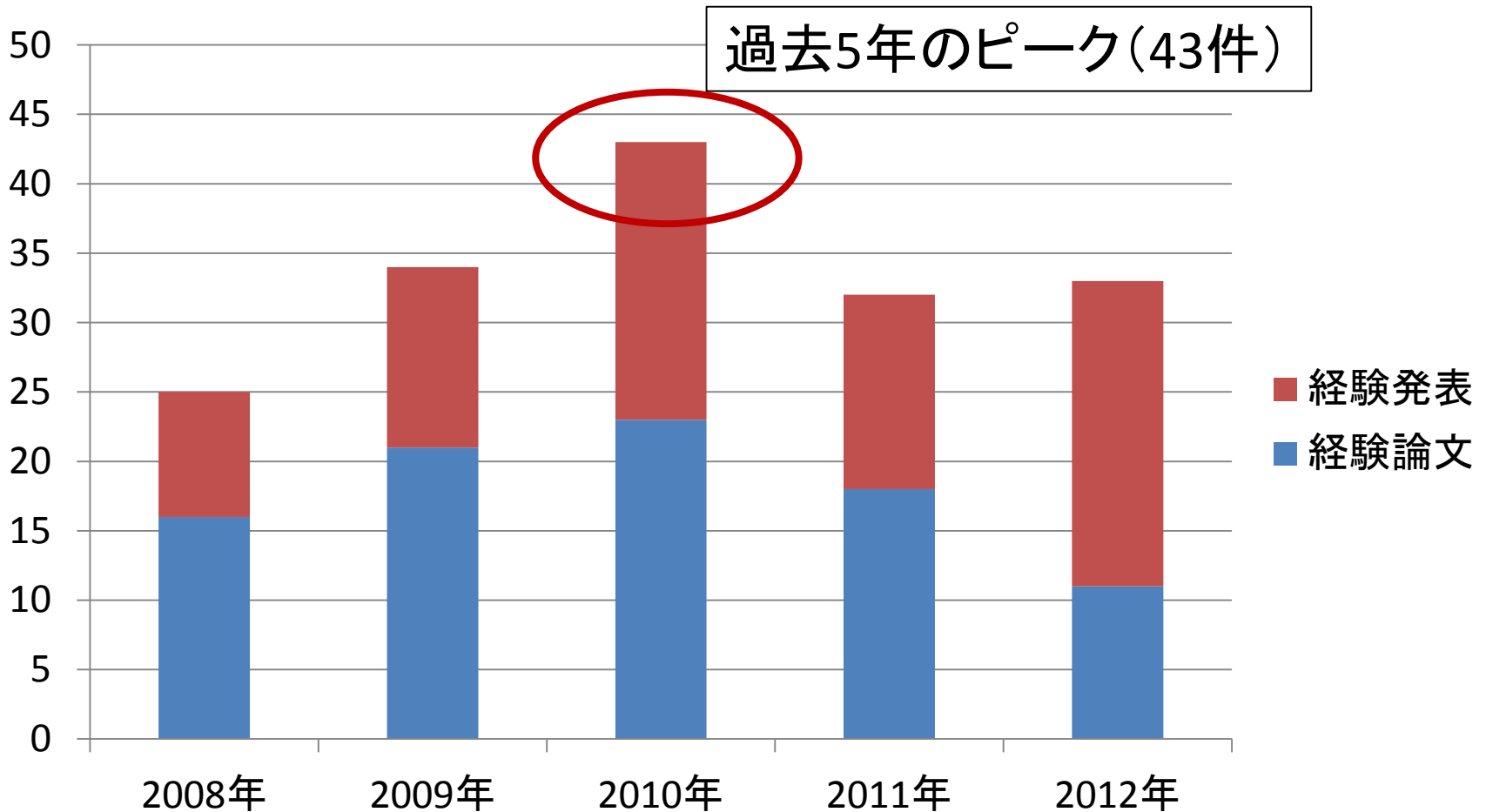
もっともっと  
皆様の品質活動に  
関する工夫や成果を  
(論文としても)発表  
していただきたい

そんな  
SQiPシンポジウムに

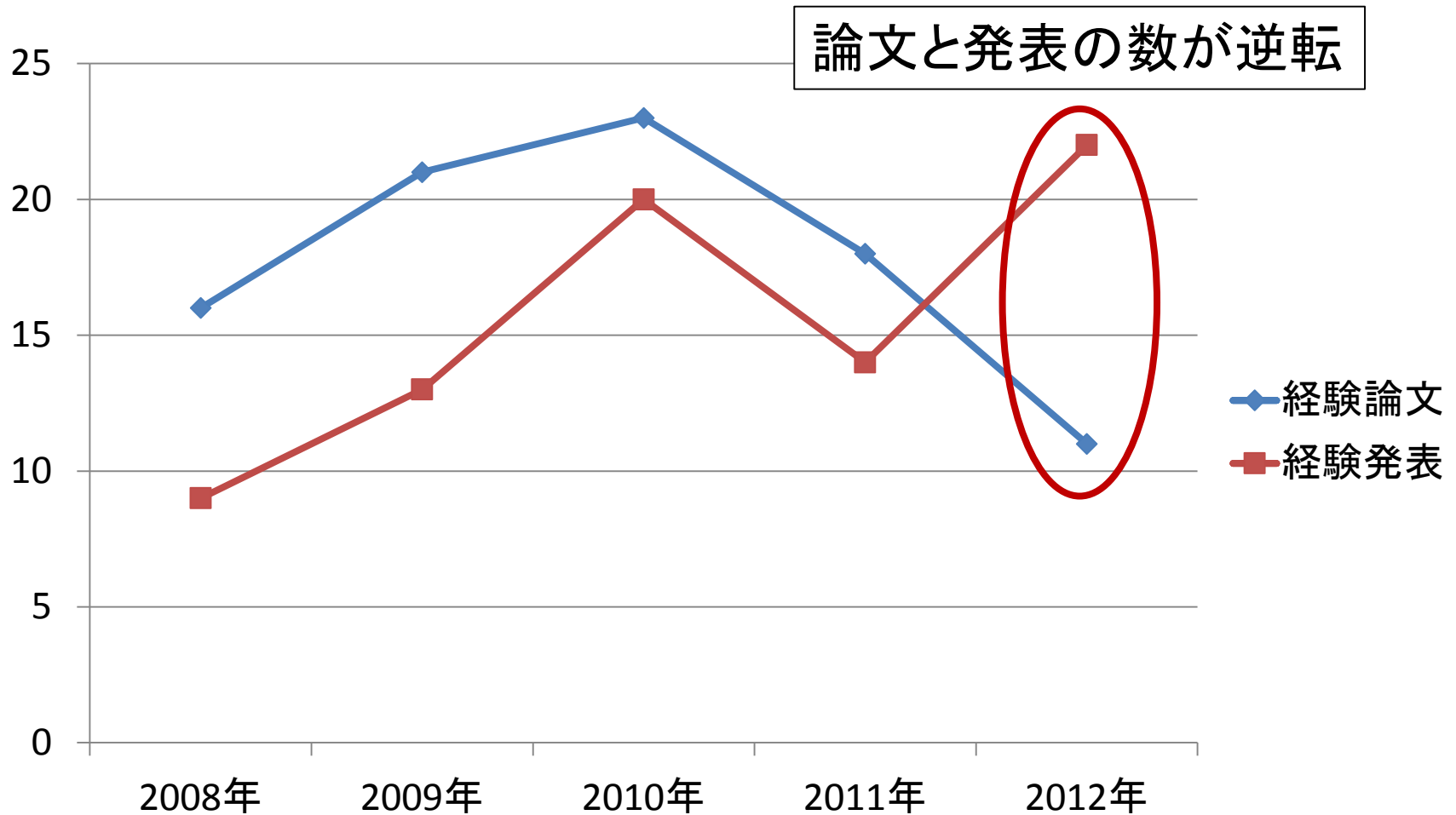
そのために

投稿応援フォーラム: 社外発表  
のススメを開催  
(社外発表の意義を考える、投稿モチベーションUP、投稿の流れやポイント整理など)

# 投稿数の推移（過去5年間） 1/2



# 投稿数の推移（過去5年間） 2/2



# 発表の傾向

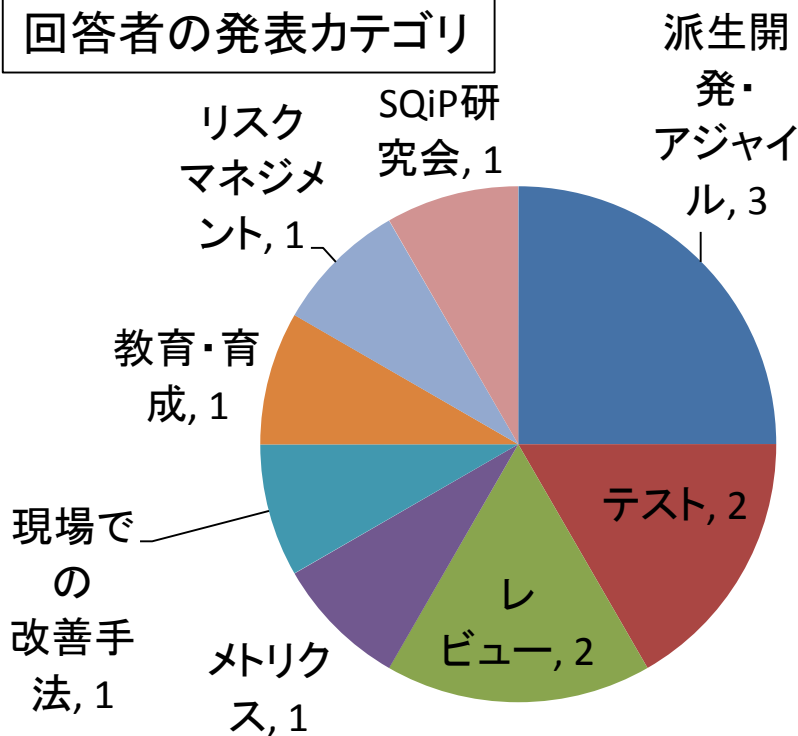
## (過去5年間の一般発表カテゴリ)

2008	10	2009	10	2010	9	2011	9	2012	7	
メトリクス・リスク管理		ソースコードメトリクス		見積り・メトリクス		定量データの分析 現場でのデータ活用		メトリクス		49 %
レビュー 組込みソフトウェアのテスト・信頼性 組込みソフトウェアのテスト		レビュー テスト		テスト		レビュー テスト		レビュー テスト		
原因追究と静的解析		モデル検査 原因分析と改善		品質分析 原因分析				SQIP研究会		
プロセス改善・CMMI		プロセス改善		プロセス改善 改善活動の浸透		組織プロセス改善 現場での改善手法 教育・育成		CMMI・プロセス 監査		27 %
現場の活性化		人材育成・コミュニケーション プロジェクトマネジメント						リスクマネジメント		
派生開発/設計 フォーマルメソッド ソフトウェアの依存性解析 と開発管理情報の分析		ソフトウェアの複雑さ 新しい開発プロセス		派生開発 オフショア・アウトソース 設計品質		派生開発 先進技術の適用		派生開発		24 %

# 発表者アンケートの主な結果 1/2

過去の発表者48名を対象にアンケート調査を実施(2013年3月)し、12名から回答あり(回答率25%)

回答者の発表カテゴリ



発表して「良かった」との回答100%

**良かった点:** ロジックの検討、他社の方との共同活動、考えの整理、フィードバック、取り組みに対する社外評価、査読・発表時に得られるコメント、振り返りと整理、プレゼン資料の社内再利用、やってきたことに自信が持てた、研究成果を社外の人と共有できた、後に引用してもらえた、度胸がついた、成果・課題・展開を深堀りできた、賛同・共感してもらえた、他社での試行→フィードバック→新たな提案、社外発表のメリットを社内メンバーに理解してもらえた

**良くなかった点:** 慌てるが多かった(発表までのスケジュール例が欲しい)

# 発表者アンケートの主な結果 2/2

**発表の動機:** SQiP研究会活動からのブラッシュアップ、社内支援者のバックアップ、上司等からの薦め、社外に活動・ツールなどをアピールしたい、活動成果の社外発信は役割の1つ、業務の節目、社内の活性化につながると考えた、社内で活動を認めてもらうために社外実績は有効、恩返し、腕試し、スキル向上、フィードバック(改善のヒントを得たい)

**発表までの障害と克服法:** 共著者とのチームビルディング(→議論の効率化)、家族の理解(→時間、終了後・・・)、プレゼン(→練習)、業務と準備との両立(→周りのサポート)、時間の捻出(→社内で業務の一環として)、社内用語(→レビュー結果をフィードバックしてギャップ克服)、アブストの書き方(→経験者を探し学ぶ)、社外発表の承認、障害なし(5)

**発表後の変化:** 気持ちが前向きに、惰性でなく何が必要か何が求められているかを考えて行動するように、業務の進め方が変化、課題の整理の仕方が変化、自信が持てるように、研究・発表意欲の向上、社外から問い合わせを受けるようになった、シンポジウムに向けて活動成果を整理する習慣がついた、他社の人とコネクションが広がった、文章の分かりやすさを一層意識、取材を受けた、品質向上に対する意識向上、知らない人から意見を求められるように、社外発表を前向きに検討する管理者の増加、社内協力者とのつながり強化、スキルアップ、プレッシャーを感じる、特に変わりなし



# 過去の発表者からのメッセージ 1/3

⇒論文作成と聞くと、「アカデミックで実務に役立つのか？」と思われる方もいらっしゃると思います。しかし、実態は全然そうではなく、**現場で発生している問題そのものにフォーカス**して、個別具体的に検討を重ねることが求められます。

そもそも、自分達が解決したい問題を取り上げるわけですから当然の結果なのですが、それを、論文作成というフレームワークを通すことで、**真因を見極め最も効果的な対策を検討**できるようになります。

我々エンジニアは手を動かすよりも頭を動かすことで、より労働集約的な仕事の仕方から知識集約的な仕事の仕方へシフトしていかないと、アジアの安価な労働力に負けていくでしょう。

論文作成の活動は、その**知識集約的な仕事へシフトするための、1つの方法論**です。それも、現場のエンジニアが、明日からでも始めることができるという点が、極めて現実的かつ即効性のある手段だと思っています。

戦略的な方向性は組織のトップが日々考えていることですが、我々エンジニアが現場レベルで組織力を高めるといふ地道な努力が、今後の日本の、世界の中での立ち位置を決定づけていくと感じています。

話が少し大きくなってしまいましたが、要は**現場の力で会社を、社会を良くしていこう！**そのための1つの方法として、論文作成活動がある、と考えていただけたらと思います。

初めてだととても**苦勞**しますが、それ以上におつりがあったと感じました。

# 過去の発表者からのメッセージ 2/3

研究したことや工夫したことを論文にまとめて**世に残して**いきましょう。  
論文を読んだ人、発表を聞いた人、**多くの人に影響を与えて**いきましょう。

社外にて発表したことにより、社外の方からも**問い合わせ**を受けるようになりましたし社内からもさらに技術やツールの**問い合わせ**を受けるようになりました。

自分の会社では当たり前なことだと思っても、他社の方にとっては、**新たな気づき**となることもあります。

また、発表の準備をすることで、今まで行ってきた**活動の整理**にもなります。仮に採択されなくても、**査読者から改善点などのコメント**も頂けますので、まずはアブストラクトを投稿してみてください。

あまり固く考えずに、**気楽**に投稿・発表されることをお奨めします。

発表資料の作成等の準備から発表まで、大変には違いないですが、間違いなく**1つの成果**として残るものができ、**達成感**も得られると思います。

また、自分や自社、やってきたことを客観的に見られるよい機会だと思います。

アウトプットを出すことによって変わることは、**得られるインプットの質が格段に良くなる**ことだと思います。それは自分自身の**アンテナが鋭くなったり、他の方との議論**によるところが大きいと思います。

# 過去の発表者からのメッセージ 3/3

社外に共有できる**ネタ(素材)**があるなら**是非発表**した方がよいと思います。文章作成能力向上など自分自身の**スキルアップ**にもつながると思います。

今回の発表を通して、自分や自社の活動を世間に発表することは、とても**尊い**ことだと気づくことができました。発表前も今も、目の前の業務に日々追われがちでしたが、発表に値する活動ができたなら、また発表したいと思います。皆さんもいかがでしょうか。

ソフトウェア品質技術は、奥が深くかつまだ発展途上段階だと思います。その技術を高めるためには、皆さんの**知恵を出し合って切磋琢磨**することが大事です。**勇気**を持って是非発表にチャレンジしてみてください。期待しています。

社外発表は、おススメです。

社内発表では得られない、**緊張感**の高い社外発表を経験することは、発表者自身の大きな**スキルアップ**につながります。チームで臨めば、**組織強化**にもつながられます。今は、「**情報の発信者に情報が集まる時代**」です。これまでに多くの**フィードバック**や**提案**を頂くことで実証できています。是非、社外発表にチャレンジし、社内では得られない反応や変化を楽しんでください。

## 【講演1】

「私が体験したSQiPシンポジウムでの論文発表と投稿のススメ」

ソニー株式会社 花原 雪州 氏

## 【講演2】

「デンソーにおけるトップガン研修と論文投稿による人材育成」

株式会社デンソー技研センター 古畑 慶次 氏

ミニセッション「アブスト作成のポイント」

- 投稿はしてみたいけど、なかなか一歩が踏み出せない
- 外部発表の経験を通じて、モチベーションを高めひいては技術者のスキルアップ、職場活性化を目指したい

とお考えの方に、

是非本フォーラムから何かを持ち帰っていただき、投稿していただけたらと考えています。

また、これからの投稿応援のために、アンケート調査にご協力ください！